

医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読み下さい。

## 使用上の注意改訂のお知らせ

深在性真菌症治療剤  
処方箋医薬品  
日本薬局方ボリコナゾール錠

**ボリコナゾール錠 50mg「アメル」**  
**ボリコナゾール錠 100mg「アメル」**  
**ボリコナゾール錠 200mg「アメル」**

Voriconazole Tablets 「AMEL」

2023年9月

 共和薬品工業株式会社

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、『ボリコナゾール錠 50mg、錠 100mg、錠 200mg「アメル」』の【使用上の注意】を改訂致しますので、ご使用に際しましては、下記内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

敬白

記

【改訂内容】(下線——部 改訂箇所)

改訂後	現行添付文書 (2023年7月改訂)																					
<p><b>2. 禁忌 (次の患者には投与しないこと)</b></p> <p>2.1 次の薬剤を投与中の患者：リファンピシン、リファブチン、エファビレンツ、リトナビル、ロピナビル・リトナビル、ニルマトレルビル・リトナビル、カルバマゼピン、バルビタール、フェノバルビタール、ピモジド、キニジン、イバブラジン、麦角アルカロイド (エルゴタミン・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミン、エルゴメトリン、メチルエルゴメトリン)、トリアゾラム、チカグレロル、アスナプレビル、ロミタピド、ブロンサンセリン、スポレキサント、リバーロキサバン、リオシグアト、アゼルニジピン、オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン、ベネトクラクス (再発又は難治性の慢性リンパ性白血病 (小リンパ球性リンパ腫を含む) の用量漸増期)、アナモレリン、ルラシドン、イサブコナゾニウム[10.1 参照]</p>	<p><b>【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】</b></p> <p>(1) 次の薬剤を投与中の患者：リファンピシン、リファブチン、エファビレンツ、リトナビル含有製剤、カルバマゼピン、長時間作用型バルビツール酸誘導体、ピモジド、キニジン硫酸塩水和物、イバブラジン塩酸塩、麦角アルカロイド (エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩、エルゴメトリンマレイン酸塩、メチルエルゴメトリンマレイン酸塩)、トリアゾラム、チカグレロル、アスナプレビル、ロミタピドメシル酸塩、ブロンサンセリン、スポレキサント、リバーロキサバン、リオシグアト、アゼルニジピン、オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン、ベネトクラクス (再発又は難治性の慢性リンパ性白血病 (小リンパ球性リンパ腫を含む) の用量漸増期)、アナモレリン塩酸塩、ルラシドン塩酸塩 (「3. 相互作用」の項参照)</p>																					
<p><b>10. 相互作用</b> —略—</p> <p><b>10.1 併用禁忌 (併用しないこと)</b></p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td colspan="3">—略—</td></tr><tr><td>ルラシドン (ラツェダ) [2.1 参照]</td><td>本剤との併用により、ルラシドンの血中濃度が上昇し、作用が増強するおそれがある。</td><td>本剤はルラシドンの代謝酵素 (CYP3A4) を阻害する。</td></tr><tr><td>イサブコナゾニウム (クレセンバ) [2.1 参照]</td><td>本剤との併用により、イサブコナゾールの血中濃度が上昇し、作用が増強するおそれがある。</td><td>本剤はイサブコナゾールの代謝酵素 (CYP3A4) を阻害する。</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	—略—			ルラシドン (ラツェダ) [2.1 参照]	本剤との併用により、ルラシドンの血中濃度が上昇し、作用が増強するおそれがある。	本剤はルラシドンの代謝酵素 (CYP3A4) を阻害する。	イサブコナゾニウム (クレセンバ) [2.1 参照]	本剤との併用により、イサブコナゾールの血中濃度が上昇し、作用が増強するおそれがある。	本剤はイサブコナゾールの代謝酵素 (CYP3A4) を阻害する。	<p><b>3. 相互作用</b> —略—</p> <p>(1) 併用禁忌 (併用しないこと)</p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td colspan="3">—略—</td></tr><tr><td>ルラシドン塩酸塩 (ラツェダ)</td><td>本剤との併用により、ルラシドン塩酸塩の血中濃度が上昇し、作用が増強するおそれがある。</td><td>本剤はルラシドン塩酸塩の代謝酵素 (CYP3A4) を阻害する。</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	—略—			ルラシドン塩酸塩 (ラツェダ)	本剤との併用により、ルラシドン塩酸塩の血中濃度が上昇し、作用が増強するおそれがある。	本剤はルラシドン塩酸塩の代謝酵素 (CYP3A4) を阻害する。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																				
—略—																						
ルラシドン (ラツェダ) [2.1 参照]	本剤との併用により、ルラシドンの血中濃度が上昇し、作用が増強するおそれがある。	本剤はルラシドンの代謝酵素 (CYP3A4) を阻害する。																				
イサブコナゾニウム (クレセンバ) [2.1 参照]	本剤との併用により、イサブコナゾールの血中濃度が上昇し、作用が増強するおそれがある。	本剤はイサブコナゾールの代謝酵素 (CYP3A4) を阻害する。																				
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																				
—略—																						
ルラシドン塩酸塩 (ラツェダ)	本剤との併用により、ルラシドン塩酸塩の血中濃度が上昇し、作用が増強するおそれがある。	本剤はルラシドン塩酸塩の代謝酵素 (CYP3A4) を阻害する。																				

(裏面につづく)

**【改訂理由】**

以下の項目を改訂し、注意を喚起することと致しました。

自主改訂

「2. 禁忌」、「10. 相互作用 10.1併用禁忌」の項：

相互作用の相手薬剤との整合性を図るため、改訂しました。

以上

これらの情報は、2023年9月に発行予定のDSU No.320に掲載致します。

なお、改訂情報は弊社ホームページ <http://www.kyowayakuhin.co.jp/amel-di/> 及びPMDAホームページ「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)に改訂指示内容、最新の電子添文並びに医薬品安全対策情報(DSU)が掲載されます。あわせてご利用下さい。

お問い合わせ先：共和薬品工業株式会社 安全管理部 大阪市北区中之島 3-2-4  0120-041-189